

低侵襲心臓手術 MICS; Minimally Invasive Cardiac Surgery

心臓血管外科 上西祐一郎

心臓の手術は一般的には胸の真ん中の胸骨を縦に大きく切開して行います(写真2)。しかし、僧帽弁や三尖弁の弁膜症、心房の病変の場合は、右前胸部の小さな切開(6-9 cm)で手術を行うことができます(写真1)。「きず」を小さくして胸骨切開を行わない手術方法は縦隔炎や胸骨骨髓炎の合併が少なく、在院日数や退院後の日常生活への復帰が早いので低侵襲心臓手術(MICS; Minimally Invasive Cardiac Surgery)とよばれています。国内ではまだ限られた施設でしか行われておりませんが、自治医科大学附属病院循環器センターではMICS手術を2011年4月から開始しました。2011年7月までにMICSによる僧帽弁形成術(自己弁を修復する手術)3例、僧帽弁位人工弁置換術1例、心臓腫瘍切除1例が行われ、5名とも合併症無く退院されております。女性の患者様では、乳房の陰に「きず」が隠れてみえにくくなるので美容的なメリットもあります。小さな「きず」の心臓手術MICSを希望される患者様は心臓血管外科外来にご相談ください。

MICSの創(きず)



一般的な胸骨正中切開の創(きず)

